

01 差別をなくす人になる（同和問題）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市が
送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、山田
としあきがお届けします。タイトルは「差別をなくす人にな
る」です。

公益財団法人「反差別・人権研究所みえ」の本江優子さんは、
さまざまな差別問題の啓発活動や、小中高生に向けた人権に
関する授業を行っています。

本江さんがこのような活動を始めたきっかけは、20歳の
頃、付き合っていた人の家族から、被差別部落出身であるこ
とを理由に、結婚を反対されるといふ差別を受けたことでし
た。初めて部落差別に直面した本江さんは「部落に生まれて
きた私が悪いんだ」と生きる望みを失い、「どうして部落で私
を生んだの」と家族を責めて傷つけてしまいました。

そんなとき、「人権や差別について勉強してみたら」と声を
かけられて、今の職場に就職しました。

【本江さん役】職場の人たちは、本気で差別をなくそうとし
ている人ばかりで、「世の中にこんな人たちがいるのか」と
衝撃を受けました。また、「差別は、差別する人があるから起
きる」という言葉にも出合いました。仕事をしながら、人権

25 や差別さべつについてまな学びつづ続けて6年ねんほど経たち、「私わたしが部落差別ぶらくさべつを受けているのは、私わたしのせいじゃない」と心こころの底そこから思おもえるようになりましいまた。今も差別さべつに苦くるしむ人ひとはたくさんいるので、啓発活動けいはつかつどうや講演こうえんを通して、差別さべつをなくしていきおもいたいと思おもっています。

30 (ナレーター) 本江もとえさんは人権じんけんに関する授業じゅぎょうをするときは、みんなで考かんえることを大だい事じにしています。

35 【本江もとえさん役やく】授業じゅぎょうでは、「身み近ぢかなところで差別さべつが起おきているとき、それを知しった自分じぶんはどうするか想そう像ざうしてみよう」と問といにかけています。子こどもたちの大たい半はんは、差別さべつに気き付づいても見みて見みぬふりをしたり、「私わたしには何なにもできない」と思おもったりするこたと答こたえてくれます。しかし、何なにもしないままでは差別さべつはなくなりません。では、どうすれば差別さべつをなくせるのか、みんなで一いっ緒しょにワイワイ話はなし合あって、自分じぶんで考かんえるきっかけをつくっています。授業じゅぎょうが終おわると、子こどもたちは「めっちゃ面白おもしろかった」と言いいに来きてくれます。人権じんけんは生うまれてから死しぬまですつと身み近ぢかなことなので、楽たのしく学まなび続つづけてほしいと考かんえています。

45 (ナレーター) 差別さべつをされるために生うまれてきた人ひとはいません。「勇気ゆうきを出だして差別さべつをなくす人ひとになつてね。」本江もとえさんは、今日きょうも子こどもたちに語かたりかけています。

